

新型コロナウイルスを正しく知って、差別のない社会へ

問(市)人権推進課

新型コロナウイルスの感染が拡大した中で、医療従事者への偏見や差別が大きな問題となりました。医療従事者は感染リスクのある状況下でも患者の治療にあたり、過酷な生活を強いられるケースが報告されています。

医療崩壊も懸念された中、こうした人々の努力のおかげで少しずつ感染者数が減っていますが、まだまだ気を緩めることはできません。その一方、思い込みだけで、医療従事者やその家族を「ばい菌」扱いすることや、「〇〇が感染して

いるのではないか」と疑って避けるような差別が起きてしまっているのは、きわめて残念なことです。

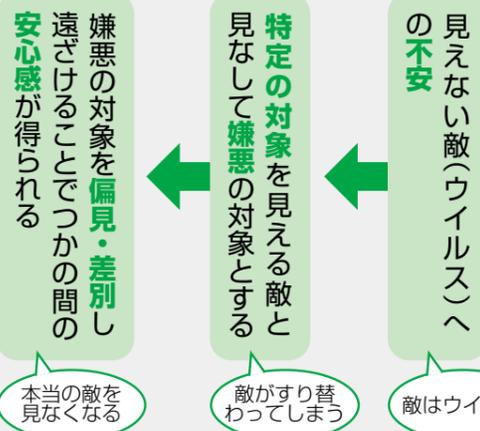
なぜ差別が生まれるのか

日本赤十字社新型コロナウイルス感染症対策本部が発行した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！〜負のスパイラルを断ち切るために〜」では、下図のような仕組みを挙げています。

これは、不安を感じる人の間で流れるうわさにより、敵が見えないもの(ウイルス)か

ら見えるもの(特定の対象)へとすり替わり、偏見や差別へ

なぜ、嫌悪・偏見・差別が生まれるのか



とつながっていくことを示しています。

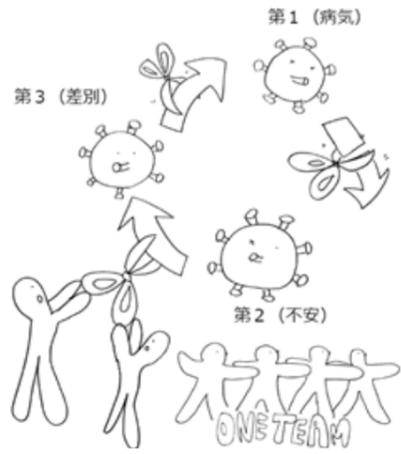
さらには、思い込みや根拠のない話が事実化するといったことも起こり、特定の対象への嫌悪感により一層増大へと変えるために、特定の対象を遠ざけることがまさに差別となつて社会に存在しています。無知こそが不安をおおきく「嫌悪・偏見・差別」につながっていきます。正しく知ることが本当の見えない敵(ウイルス)と闘う第一歩です。



負のスパイラルをどうすれば防げるか

大阪大学などが行った国際調査では、日本人は欧米人と比較して「感染する人は自業自得だ」と思う人の割合が際立って高いという結果が示されています(欧米が1〜2%に対して、日本は11.5%)。こうした傾向は感染した人への差別行動につながりやすくなるのではないのでしょうか。

- 誰でも感染する可能性はあります。だからこそ、次のようなことが大切になります。
- 不確かな情報に振り回されない。
- 趣味の時間や親しい人との交流を持つ。
- 差別的な言動に同調しない。
- 事態に対応している全ての人に敬意を払う。



(出典:日本赤十字社)

「私は感染しないように努力しているのに」と排他的になるのではなく、一人ひとりの意識した行動で負のスパイラルを防ぎましょう。

人権擁護委員が表彰

- 人権擁護委員として長年活躍されている2名の方が、5月3日に表彰されました。
- 法務省人権擁護局長感謝 森田直道さん
- 全国人権擁護委員連合会長表彰 藤田加代子さん

男女共同参画センター「こらぼーよ」

問 0806-26301

男女共同参画センター「市民企画講座」を支援

- 要件(次の要件を全て満たす)
 - 男女共同参画の実現をめざす内容で参加費が無料。市内団体が市内で実施。
 - 10月1日(木)〜令和3年3月31日(水)までに実施
 - 他の補助金を受けていない
- 支援内容 講座開催に係る経費(上限5万円)、広報みや市ホームページへの掲載
- 募集期間 7月31日(金)まで
- 募集件数 1件
- 申込 男女共同参画センター、総合隣保館、各市立公民館、市ホームページにある申請書に必要事項を明記し申し込んでください。

男女共同参画セミナー 出前講座

- 男女(とも)に学ぼう防災
- 日時 7月22日(水) 午前10時〜11時30分
- 場所 三木南交流センター
- 講師 斉藤容子さん(関西学院大学 災害復興制度研究所主任研究員)
- 申込 三木南交流センター
- TEL 083-117110
- FAX 083-117111

ふるさとに生きるVol.30を発行しました

毎年、各地区の住民学習において、活用いただいています。住民学習は昭和46年にスタートし、「差別のない明るい町づくり」をテーマとして市民が主体となって学び続けてきました。

さまざまな人権問題について知ることから始め、人権について考えるきっかけにいただけたら幸いです。

三木市のホームページからもご覧いただけます。▶

